

# ながたけ -H29・秋号-

平成29年10月で長竹は4年6か月を迎えました。施設では7月から診療科長として医師の村上が、9月からは支援係長として吉澤が新たに着任しました。長竹の緑豊かな森に新たな風を吹き込むべく、老体に鞭を打つ二人の「ナウでヤングな」ニューフェイスをご紹介します。

## 診療科長 村上研一



みなさん、はじめまして。

今年の7月からワゲン療育病院院長竹でお世話になっている医師の村上です。

初め「ワゲン」の文字を見た時に「どんな意味があるのだろうか?」と不思議に思い、ホームページを見て「和顔愛語」の「ワゲン」であることを知りました。

「和顔愛語 先意承問」とは浄土宗の「大無量寿経」というお経の中にある言葉で「和やかな笑顔と思いやりのある言葉で人に語りかけ、相手の気持ちを先に察して相手のために何ができるかを自分に問いたすこと」とありました。

医療や福祉の現場に限らず、普段つらいことや嫌なことがあって愚痴をこぼしたくなることは沢山あります。そんな時こそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢を大切にしたいと思います。

そして、相手が口にしなくても（言葉に表すことができなくても）、相手の痛みを自分の痛みとして感じとり、その人のために何ができるのか、何を取り除いてあげられるのかを常に慮（おもんばか）りながら日々過ごしていきたいと思っています。

皆さんで「和顔愛語」をモットーに楽しいことを共有し、つらいことを慰め合える、そんな雰囲気作りを利用者さんとだけでなく職員の皆さんと一緒に築いていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 生活支援係長 吉澤宏次



みなさん、こんにちは。

9月から生活支援係長として、ワゲン療育病院院長竹で働くことになりました吉澤宏次（よしざわ ひろつぐ）と申します。よろしくお願いいたします。

利用者みなさん、一人ひとりが健康や機能維持とともに毎日楽しく生活できるよう、スタッフとともに色々工夫をしていきたいと思っています。

以前、知的障害者の入所施設に勤務していた時に、「パトカーに乗りたい」と言っていた利用者さんがいました。多くの職員は「パトカーは悪いことをしなければ乗れないので無理です」と返事をしていました。

何とかならないかと漠然としたまま警察署に相談に行ったら、以外にも「簡単です」という答えでした。警察によれば、施設で交通安全教室を開いてくださいということでした。

警察の方に言われるまま、準備をすすめていたら、当日パトカーと白バイが数台ずつ来てくれ、横断歩道の渡り方をぬいぐるみで説明していただいた後、全員がパトカーに乗車するというイベントができました。

できないと諦める、できない理由を並べるよりも、どうしたらできるか、できるために誰かに相談するといった発想の大事さを学びました。

このワゲン療育病院院長竹でも、このような考えのもと、利用者さんの希望を聞きだし、少しでも実現できるようにする、そういった取り組みを職員全員でできる施設にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 家族会からご寄付をいただきました

さる9月26日、家族会を代表して高山会長ご夫妻、前島さんが施設に来所され、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」の額装とアロマオイル、アロマディフューザー2点、レクリエーションダンスのレクチャーDVD&CD、ハンドベル教本、誕生会イベント用のスペシャルデコハット&タスキなど計12点を寄付して下さいました。フェルメールの絵画は2Fエレベーター前に飾らせていただき、名作のオーラを放っています。その他の贈呈品も誕生会や設定活動などで大活躍してくれそうですね!!

家族会のみなさま、本当にありがとうございました。



誕生日用タスキ  
誕生日用ハット→

← フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」

家族会のみなさんと贈呈の記念写真 →  
アロマディフューザー  
ダンスDVD&CD  
ハンドベル教本 ↓

